

第 3 回 日南町中心地域整備検討委員会 会議録

1 会議名

第 3 回 日南町中心地域整備検討委員会

2 開催日時

令和 7 年 10 月 28 日（火）午後 2 時 30 分～午後 4 時 40 分

3 開催場所

日南町役場 交流ホール

4 出席者

（1）委員（名簿のとおり）

（2）オブザーバー（名簿のとおり）

（3）事務局（名簿のとおり）

5 配付資料

- 病院建設延期等に関する説明資料（「最後の砦 日南病院を守るために」等）
- 諮問の取り下げについて（文書）
- 日南町中心地域整備計画の策定に係る方針について（再諮問文書）

- 資料 4:中心地域整備の方向性(案)(16～26 頁)
 - 今後の進め方について(案)(27 頁～)
 - (別紙)中心地域の図面(要確認)
-

6 議事次第

1. 開会
 2. 挨拶
 3. 本委員会再開にあたっての経過説明
 4. 諮問の取り下げ及び再諮問
 5. 委員の変更等(新任委員挨拶)
 6. 議事
 - (1)中心地域整備の方向性について
 - (2)今後の進め方について
 - (3)その他
 7. 閉会
-

7 会議内容(要旨)

7-1 開会

- 事務局より開会し、進行方法について説明

7-2 挨拶

- 委員長より挨拶
 - 病院に関する方針が示されたことを受け、中心地域整備検討委員会を再開する
 - おおむね１年程度の期間で集中的に議論し、中心地整備の方向性を示し、速やかな整備につなげたい
 - 忌憚のない意見を求め、納得感のある形で取りまとめた

7-3 本委員会再開にあたっての経過説明

- 町長より経過について説明
 - 新病院建設について、議会特別委員会で「延期」を表明し、その後、町内のまちづくり協議会等で説明を実施した
 - これまで病院候補地として議論してきた場所（道の駅裏、文化センター横駐車場等）との関連から、本委員会は一時休止していた
 - 病院建設の延期表明を受け、病院議論と切り離して中心地域整備の検討を再開したい
 - 病院建設延期の判断理由（要旨）は以下のとおり
 - 建設費の高騰（人件費・物価高騰等）
 - 国・県の医療政策動向（地域医療構想の見直し、病床削減方向、病院経営悪化等）
 - 人口減少（将来推計）を踏まえ、日野郡域での医療・介護・福祉の将来像を整理する必要
 - 病院候補地は一旦白紙とし、現位置も含め適切な立地を改めて検討する

【質疑等】

- 経過説明に関して質疑なし

7-4 諮問の取り下げ及び再諮問

(1) 諮問の取り下げ

- 令和６年７月１３日付で諮問した「日南町中心地域整備計画の策定に係る方針について」を取り下げ

- 理由は、中核事業として位置づけていた新病院建設が延期となり、諮問時の前提条件が根本的に変更されたため

(2) 再諮問

- 諮問事項は「日南町中心地域整備計画の策定に関すること、その他必要な事項」
- 趣旨は、病院建設の方向性検討に2年を要する一方で、町の停滞を避け、現実的・実効性ある中心地整備を着実に進める必要があるため
 - 地方創生2.0（若者・女性に選ばれる地方づくり）
 - コンパクトプラスネットワーク
 - 現実的かつ段階的な整備計画策定

【確認】

- 諮問の受理

7-5 委員の変更等（挨拶）

- 事務局より、新任委員等の紹介・挨拶
-

8 議事

8-1 議事（1）中心地域整備の方向性について

8-1-1 事務局説明（資料4：中心地域整備の方向性（案））

- 事務局より資料説明（要旨）
 - 趣旨：人口減少下でも持続可能なまちであり続けるため、コンパクトビレッジ構想を進化させ、新たな中心地整備計画の策定に向け協議を行う

- 新たな方針：病院建設延期を踏まえ、地方創生 2.0 やコンパクトプラスネットワークの考え方を踏まえた、現実的・段階的な計画を策定する
- 方向性（案）：
 - 「ごちゃまぜ」の中心地域（多様な世代・目的が交わる場をつくり、賑わいを創出）
 - 生活機能を中心地域で完結させ、安心して利用できる環境を整備
 - 中心地域と周辺地域を公共交通等で結び、通学・通院・買い物等の移動負担を軽減
- エリア整理（案）：中心地域を大きく 2 地域に整理し、段階的に実施
- ワークショップ意見を踏まえ、4 つのエリア（地域ケア、人材育成、賑わい拠点、回遊型等）を設定
- 全国事例（小さな拠点等）の紹介

8-1-2 質疑・意見

- 委員長：本日の方向性案は「たたき台」であり、このとおり整備することの承認を求めるものではない
- 委員：「ごちゃまぜの中心地域が賑わいとみんなのウェルビーイング（健康と幸せ）を作る」という言葉が分かりにくいこと、「ウェルビーイング」は町内で浸透していないため住民がイメージできる言葉（方言や平易な日本語等）に見直せないか
- 委員長：指摘は考え方自体よりも「言葉が伝わらない」点への懸念であると整理し、事務局の見解は？
- 事務局：たたき台であり今後の会議で検討・修正可能であること、キャッチフレーズとして考えるきっかけになる言葉を入れた意図がある。言葉自体は見直しする（方向性の根幹を変えずに表現を改善する余地がある）
- 委員：事務局の意図は理解するが、難しい言葉を使うと住民が置き去りになること、「我々はどうでもよいのか」と受け止められる恐れがあるため、住民に寄り添う言葉を優先してほしい
- 委員長：ほかに関連意見があれば

- 委員：そもそも「コンセプト（方向性）」は役場が既に決めており、委員会はその前提で詳細を詰めるだけなのか、それともコンセプト自体も議論の対象としてよいのか確認したい
- 事務局：「ごちゃまぜ」の考え方はこれまでの議論の継承であり、柱として維持したいこと、ただし表現や中身の整理は委員会で議論してほしい
- 委員：資料 17 頁「10 年先を見据えて」の記述について、10 年先は読みづらいこと、早く着手すべきものもあるため短期・中期・長期の考え方を示してほしい
- 事務局：10 年先の姿を描きつつ、短期・中期・長期を組み合わせを進めたい、大きな変化があれば計画をブラッシュアップして見直す
- 委員長：いったん短期・長期の議論は後ほど整理すること、まずはコンセプト自体の議論に戻る
- 委員：まちが発展するには様々な機能が入り混じる（交錯する）ことが重要で「ごちゃまぜ」は賑わいを生みやすいこと、例として東京の丸の内はオフィス中心で平日は賑わうが週末は閑散とすること、平日・週末とも人が行き交うまちの方が持続的であり「ごちゃまぜ」には賛成また、方向性案は生山と霞の両エリア共存を前提にしており、集約の議論もあり得るが両方共存でよいのではないか
- 委員長：いまの意見を踏まえ、「ごちゃまぜ」の考え方（大枠）自体は土台として進めてよい
- 委員：委員構成について、中心地域の議論でも日南町全体の意見が不可欠であること、地域の会長等が少ないように見え声なき声が拾い切れない懸念があること、方針（若者と女性に選ばれる）と方向性（多様な利用者）に矛盾があるように見え文言が「ぶれている」印象である
- 事務局：地域の声は、まちづくり協議会でのワークショップやアンケート（約 1000 人対象）等で収集・集約してきた。ただし声なき声が残ることは課題

であり今後の集約方法は検討する「若者・女性」は国（地方創生 2.0）の表現を引用したものであり表現の不統一は整理する

- 委員：「みんなのウェルビーイング」と決め付けると議論がその枠に縛られ言いづらくなること、「誰もが訪れたい」「訪れやすい」等、自由度のある表現で議論できるようにしたい
- 委員長：決め付けにならない表現の工夫が必要との指摘として受け止める
- 委員：住民に伝える際はなるべく簡単な日本語にしたい。「ウェルビーイング」を「喜び」等に置き換えるとまとまり・イメージが出るのではないか
- 委員長：カタカナ語が多いと分かりにくい。日南町らしい日本語表現が望ましい
- 委員：高齢者にも分かる日本語表現にしてほしい
- 委員長（整理）：意見が出そろったため、(1)「ごちゃまぜ」の考え方（大枠）は維持し議論の土台とすること、(2)キャッチフレーズや説明文（特にウェルビーイング等）は住民に伝わる表現へ見直すこと、の方向で進めることを提案し、事務局に次回までの文言修正を依頼
- 委員：日南町の多様性として、外国人研修生等も含め計画に盛り込むべき
- 委員長：多様性の観点を記述に反映する方向で扱う
- 委員：声なき声はまだ多い、地域の実態（例：交通弱者、高齢者が安心して暮らせる機能等）をもっと拾ってほしい
- 事務局：たたき台を示して意見をもらい、委員会で揉んで住民に説明し、再度磨き上げるという往復型で進めたい、「ごちゃまぜ」は機能混在だけでなく「人が交わる」ことも含む、中心地域整備は町全体のためであり中心地外からのアクセス（公共交通等）とセットで考える、「ウェルビーイング」はSDGsの次の概念として議論してきた背景があるが言葉の使い方は見直すこと、「若者・女性」は呼び込みの重点として掲げたが特化し過ぎないように整理する

- 委員：ウェルビーイングの考え方自体は国際的にも重要な概念である、一部の人で決めてしまうのではなく途中で住民の確認（アンケート等）を行い、合意形成を図るべき
- 委員長：文言を練り直し次回提示すること、図面（具体案）の議論は進め方（住民説明会や部会設置）と関連するため、次に「今後の進め方」を先に確認する

8-1-3 委員長まとめ（確認事項）

- 「ごちゃまぜ」の考え方（大枠）は共有し、今後の議論の土台とする
 - キャッチフレーズや説明文の表現（特に「ウェルビーイング」等）は、住民に伝わる日本語を含め見直す
 - 「地方創生 2.0」「若者と女性」等の記述は、日南町の実情（高齢者・外国人等の多様性）と整合するよう整理し、次回提示する
 - 途中段階で住民の確認（アンケート等）を行い、合意形成を図りながら進める必要性を共有
-

8-2 議事（2）今後の進め方について

8-2-1 事務局説明（資料 27 頁～）

- 事務局より説明
 - 第 3 回・第 4 回：方針・方向性の整理、現状理解、ワークショップ意見整理
 - 第 5 回以降：霞地区・生山地区等、エリアの具体化（重要性・緊急性・財政・防災等の観点で検討）
 - 住民説明会：来年 5～6 月頃に開催する案（全域対象 1 回＋地区別等）意見を踏まえ回数・方法は再検討する
 - 第 6 回～第 7 回の間：住民説明会の意見を踏まえ計画修正
 - 第 8 回：答申案作成、最終確認の上答申
 - 部会設置：専門的議論を深めるため部会を設け、部会で検討→委員会へ報告→委員会で集約する

- 部会案：場所別（生山、霞）を基本に、公共交通、公園等テーマ別も検討する
- 答申時期：令和 8 年 11 月まで（事務局案）

8-2-2 質疑・意見

- 委員長：進め方（回数・内容・部会・住民説明会・答申時期）について意見を求める
- 委員：計画にはゴール（何年後の姿）が必要であること、時間軸は 5 年後なのか 10 年後なのか、どの程度を想定しているか
- 事務局：基本は 10 年程度を想定している、ただし内容によっては長期視点の検討もあり得る
- 委員：住民説明会は重要だが、そこに至る議論の経過も町民に知ってもらう努力が必要、町の媒体（例：チャンネル等）を活用し検討状況を段階的に発信してはどうか
- 委員長：議論の過程を「見える化」する趣旨として受け止めたが
- 事務局：ある程度固まった段階で発信を検討すること、委員会後は議会へも報告している、広報等も活用し町民の目に触れる工夫を進めたい
- 委員長：進め方は概ね良いが、住民への丁寧な説明・見える化の工夫をさらに考えてほしい、という整理でよいか
- 委員：次回（第 4 回）から部会ごとに具体議論に入るイメージか
- 事務局：次回は修正した方針・方向性の確認（承認）と、部会設置（何を議論するか、割振り等）を協議すること、第 5 回以降に部会を本格稼働させる
- 委員：スケジュール案では年明け（1～3 月）に部会議論となっているため、12 月時点で部会メンバー・議題を決める必要があること、部会の区切り（場所別／4 地区別／交通等の横断テーマ別）は慎重に検討すべき

- 事務局：まず場所別を基本に検討しつつ、公共交通、公園等のテーマも踏まえて部会設置を考えること、委員は全員いずれかの部会に所属させ、1部会あたり概ね6人程度を想定する
 - 委員長：部会では現地を歩き、現地で議論する機会を各部会最低1回設けるべき（机上の空論を避ける）
 - 委員：趣旨に賛同し、特段の異論なし
 - 委員長（整理）：進め方（回数・部会設置・住民説明会実施等）の方向性は概ね了承されたこと、住民への丁寧な説明・見える化（情報発信）の工夫を事務局で検討すること、次回は修正した方針・方向性の提示と部会設置（議題・割振り）を協議することを確認
-

8-3 議事（3）その他

- 委員長より追加の質問・意見を聴取
 - 特段の追加質疑なし
-

9 決定事項（確認事項）

- 病院建設は延期中心地域整備計画は病院議論と切り離して検討を進める
- 方向性（案）の「ごちゃまぜ」の考え方は土台として維持しつつ、キャッチフレーズ・説明文は住民に伝わる表現へ見直す
- 「地方創生2.0」「若者と女性」等の記述は、日南町の実情（高齢者・外国人等の多様性）と整合するよう整理し、次回提示する
- 進め方（案）：部会を設置し、次回で設置・割振り等を協議する住民説明会・情報発信の工夫も検討する
- 各部会で現地確認（現地を歩いて議論）を最低1回実施する方向とする

10 次回開催

- 第4回委員会の開催案内は、後日事務局より連絡する

11 閉会

- 委員長より謝辞（活発な意見への感謝）があった
- 事務局より閉会した